

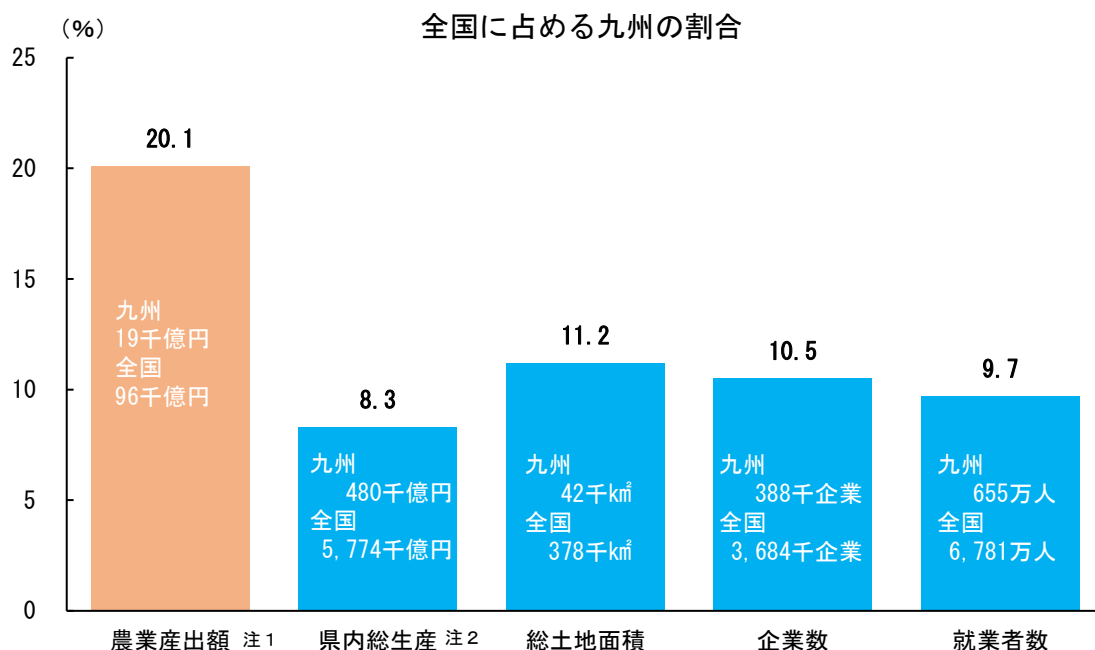
第2章 統計から見たい

構造 — 九州農業の特徴 —

【九州は日本の食料基地】

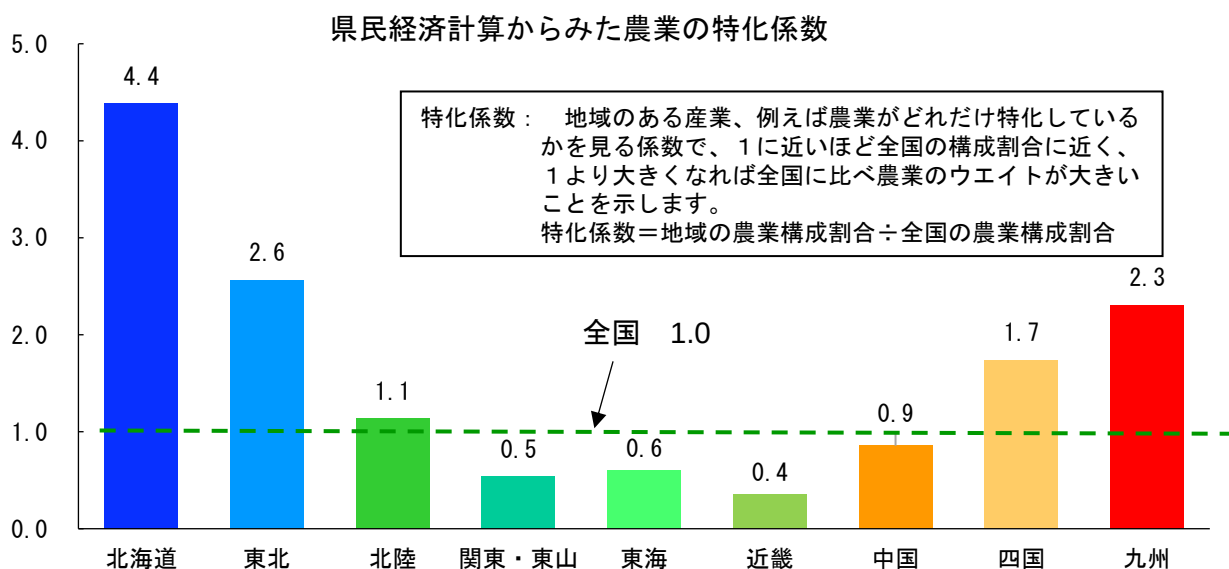
農業が盛んな九州は日本の食料基地となっており、「全国の1割経済」といわれている中、農業産出額では全国の2割を占めています。

また、県民経済計算（県内総生産）の産業別割合から計算した特化係数をみると、九州は全国の中でも農業のウエイトが大きい地域であることが分かります。



資料：農林水産省「令和5年生産農業所得統計」、内閣府「令和3年県民経済計算」
 国土地理院「令和6年全国都道府県市区町村別面積調」、総務省「令和3年経済センサス活動調査」
 総務省統計局「令和6年労働力調査」

注：1 農業産出額は、都道府県別の品目ごとの生産量に、品目ごとの農家庭先販売価格（消費税を含む。）を乗じて求めたもの。なお、農業産出額の全国は都道府県計。
 2 県内総生産の全国は全県計（都道府県計）。

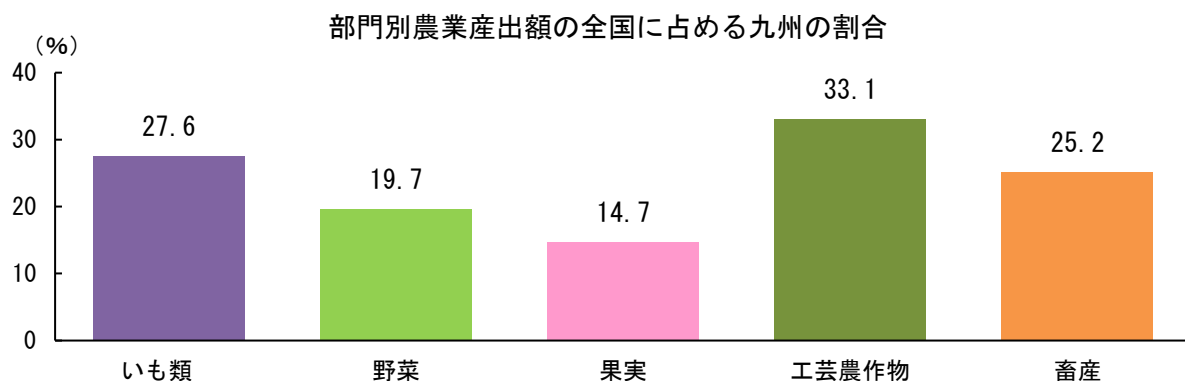


資料：内閣府「令和3年県民経済計算」

【野菜、畜産などの全国上位を占める】

九州の部門別農業産出額の全国に占める割合をみると、いも類、工芸農作物、畜産では約3割、野菜では約2割を占めています。

また、みかんやしらぬい（デコポン）など果実の生産も盛んです。



主な品目別農業産出額の全国に占める九州の割合

単位：億円、%

部門	品目名	農業産出額 (全国)	農業産出額 (九州)	全国 シェア	九州における1位		
					県名	農業 産出額	全国 シェア
いも類	かんしょ	1,096	336	30.7	鹿児島	195	17.8
	ばれいしょ	1,087	265	24.4	長崎	115	10.6
野菜	トマト	2,311	618	26.7	熊本	400	17.3
	いちご	2,055	705	34.3	福岡	244	11.9
	きゅうり	1,413	353	25.0	宮崎	196	13.9
	なす	825	199	24.1	熊本	114	13.8
	メロン	682	154	22.6	熊本	127	18.6
	ピーマン	633	224	35.4	宮崎	123	19.4
	すいか	630	148	23.5	熊本	118	18.7
果実	みかん	1,733	562	32.4	熊本	191	11.0
	しらぬい（デコポン）	172	118	68.6	熊本	81	47.1
	キウイフルーツ	109	32	29.4	福岡	21	19.3
	マンゴー	85	61	71.8	宮崎	49	57.6
	なつみかん	36	22	61.1	鹿児島	13	36.1
工芸農作物	茶（生葉）	443	208	47.0	鹿児島	140	31.6
	さとうきび	304	137	45.1	鹿児島	137	45.1
	葉たばこ	183	102	55.7	熊本	42	23.0
畜産	肉用牛	7,787	3,072	39.5	鹿児島	1,208	15.5
	豚	7,259	2,147	29.6	鹿児島	910	12.5
	ブロイラー	4,471	2,282	51.0	鹿児島	1,067	23.9

資料：農林水産省「令和5年生産農業所得統計」

【農業産出額は対前年比5.6%の増加】

令和5(2023)年の九州の農業産出額は、耕種において米や野菜、畜産において豚や鶏の価格が上昇したことから、前年に比べ1,018億円(5.6%)増加し、1兆9,226億円となりました。

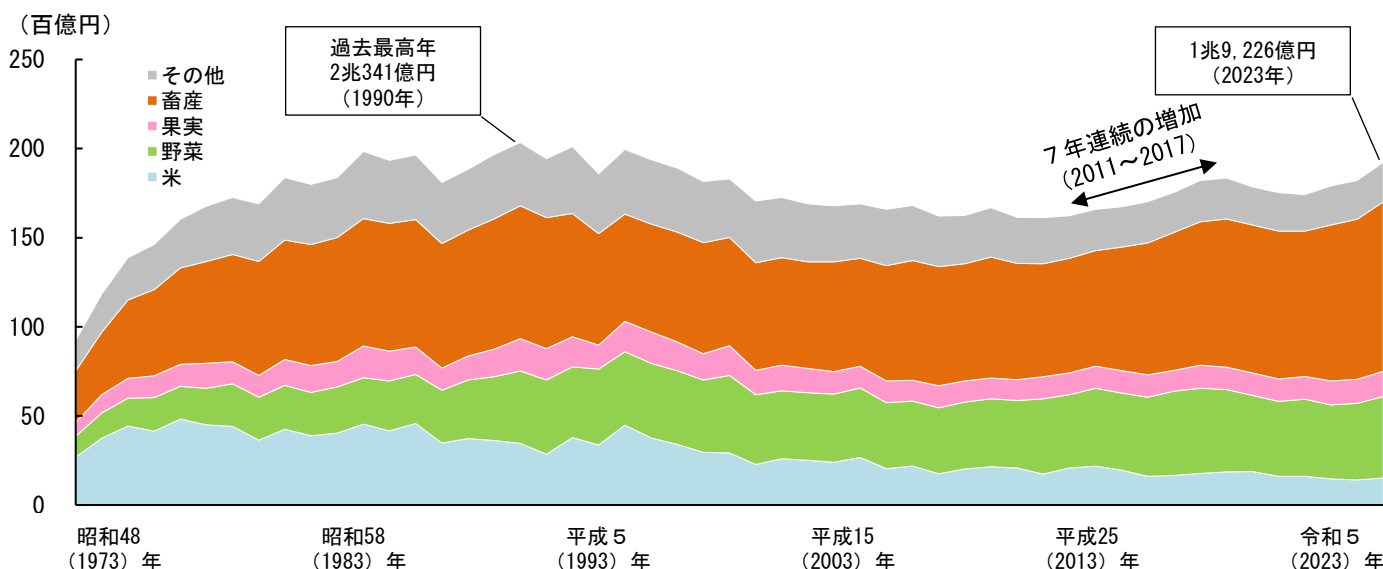
過去50年の農業産出額をみると、平成2(1990)年の2兆341億円をピークに緩やかな減少傾向で推移していたものの、野菜や畜産等を中心に、平成23(2011)年から7年連続で増加しました。その後、平成30(2018)年から再度減少傾向に転じ、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う需要の変動や価格の低下等あったものの、令和3(2021)年には畜産の需要が回復し、現在は3年連続で増加しています。

農業産出額(九州)

区 分	令和4(2022)年		令和5(2023)年		対前年 増減率
	実 額	構成割合	実 額	構成割合	
農業産出額	18,208	100.0	19,226	100.0	5.6
耕 種 計	9,065	49.8	9,557	49.7	5.4
うち 米	1,408	7.7	1,518	7.9	7.8
い も 類	583	3.2	602	3.1	3.3
野 菜	4,298	23.6	4,569	23.8	6.3
果 実	1,353	7.4	1,413	7.3	4.4
花 き	667	3.7	698	3.6	4.6
工 芸 農 作 物	492	2.7	485	2.5	△ 1.4
畜 産 計	8,978	49.3	9,511	49.5	5.9
うち 肉 用 牛	3,199	17.6	3,072	16.0	△ 4.0
乳 用 牛	771	4.2	781	4.1	1.3
豚	2,042	11.2	2,147	11.2	5.1
鶏	2,908	16.0	3,462	18.0	19.1
うち 鶏 卵	750	4.1	1,037	5.4	38.3
ブ ロ イ ラ ー	2,022	11.1	2,282	11.9	12.9
加 工 農 産 物	166	0.9	158	0.8	△ 4.8

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

過去50年の農業産出額の推移(九州)



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

【畜産や野菜が盛ん】

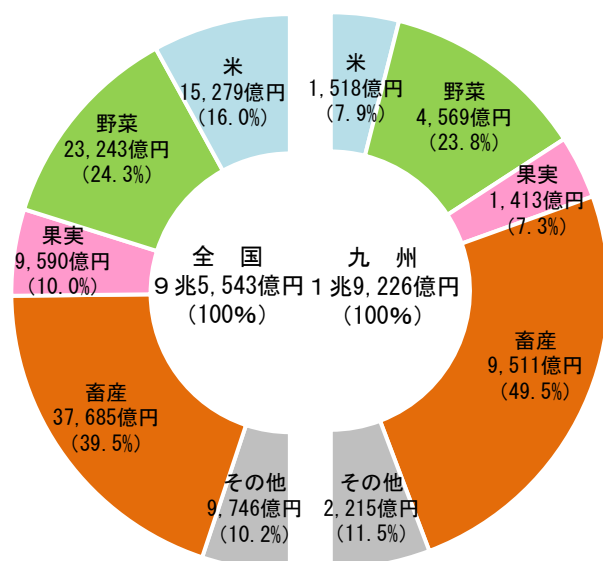
令和5年（2023）年の農業産出額の部門別構成割合をみると、九州は全国に比べて米の割合が低く（全国16.0%、九州7.9%）、畜産の割合が高く（全国39.5%、九州49.5%）なっています。

50年前の昭和48（1973）年と比較すると、九州では、米が29.0%から7.9%に縮小した一方で、野菜は12.7%から23.8%に、畜産は33.0%から49.5%に拡大しており、米を中心とした農業から、野菜や畜産を中心とした農業に推移していることが分かります。

全国も同じ傾向で推移していますが、九州では、畜産が全体の約5割を占めています。

多様な品目への展開が進んだ結果、現在、九州では野菜や畜産の生産が盛んな鹿児島県、熊本県、宮崎県の3県が全国順位10位以内に位置しています。

農業産出額部門別構成割合の比較（全国・九州）
（令和5（2023）年）



資料：農林水産省「令和5年生産農業所得統計」

注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

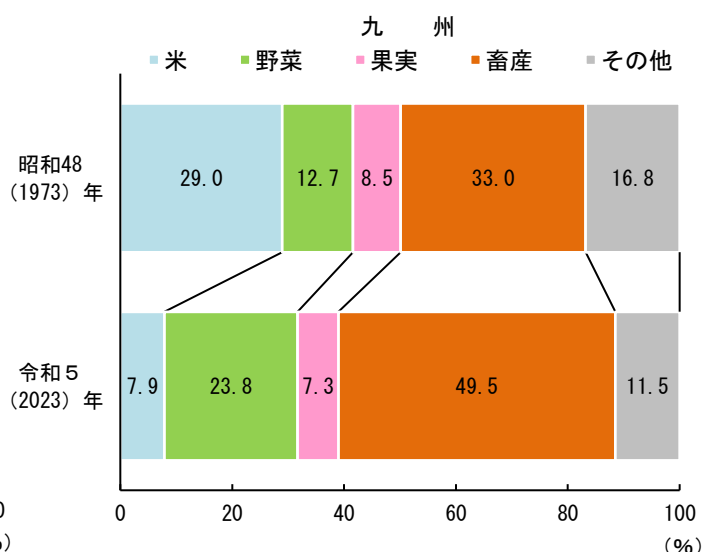
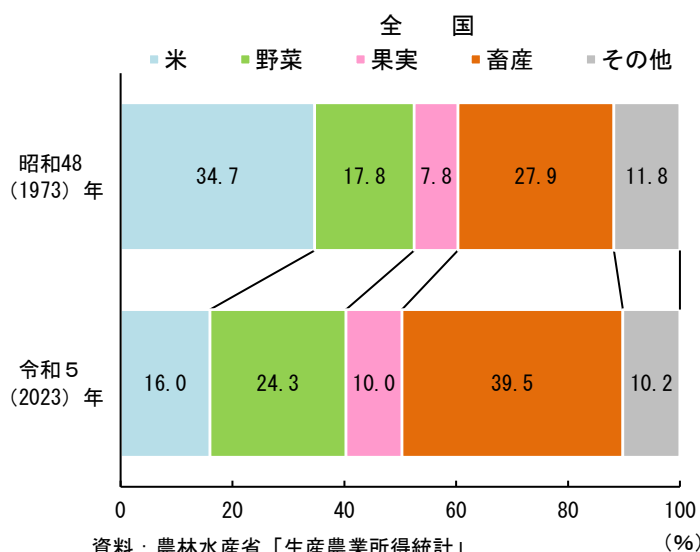
農業産出額全国上位10県の推移

単位：億円

全国順位	昭和48（1973）年		令和5（2023）年	
	都道府県名	農業産出額	都道府県名	農業産出額
1位	北海道	4,707	北海道	13,478
2位	茨城	2,741	鹿児島	5,438
3位	千葉	2,547	茨城	4,536
4位	新潟	2,187	千葉	4,029
5位	福島	2,141	熊本	3,757
6位	愛知	2,047	宮崎	3,720
7位	長野	2,045	青森	3,466
8位	群馬	2,036	愛知	3,207
9位	静岡	2,022	岩手	2,975
10位	熊本	1,939	栃木	2,959

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

50年前の農業産出額の部門別構成割合との比較（全国・九州）



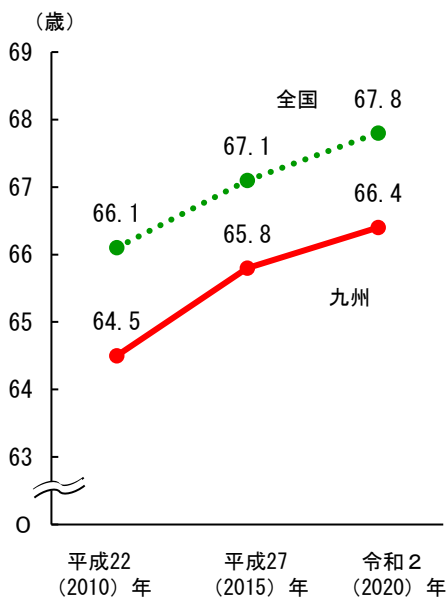
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

【農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合は全国を上回る】

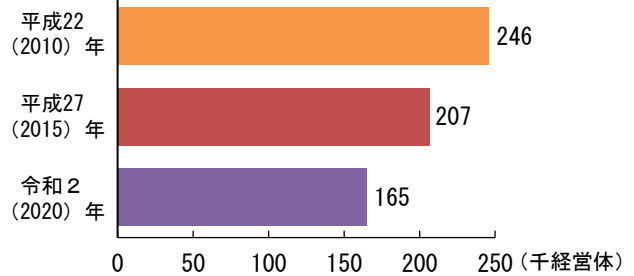
九州における基幹的農業従事者の平均年齢は全国に比べ1.4歳若くなっていますが、平均年齢は66歳を超え、農業者の高齢化が進んでいます。また、農業経営体数は165千経営体であり、10年前に比べて約3割減少しましたが、法人化している経営体は1,485経営体(37%)増加しています。

また、九州各県では農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合が増加しており、佐賀県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県が全国平均を上回っています。

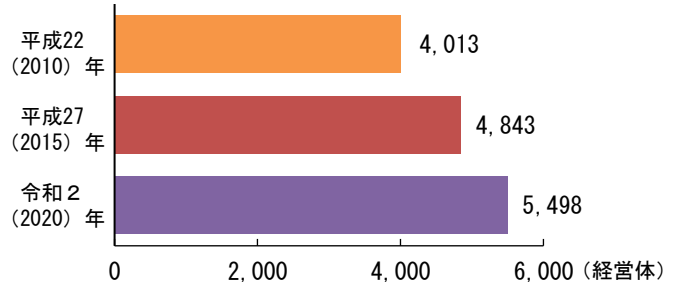
基幹的農業従事者平均年齢



農業経営体数の推移 (九州)



農業経営体数のうち法人経営体数の推移 (九州)



資料：農林水産省「農林業センサス」

注：基幹的農業従事者

基幹的農業従事者平均年齢

農業経営体

法人経営体

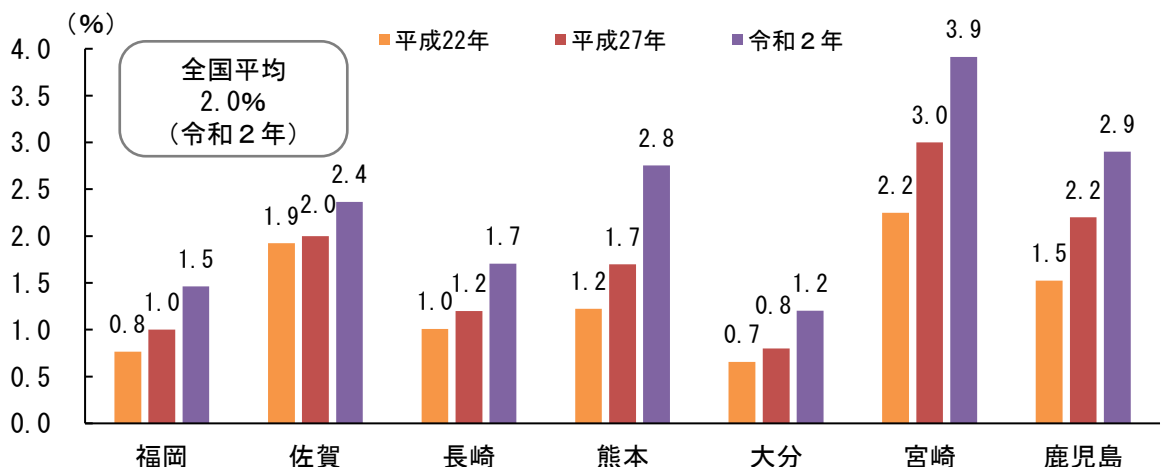
15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者をいう。

平成22 (2010) 年は販売農家の数値、平成27 (2015) 年、令和2 (2020) 年は個人経営体の数値。

経営耕地面積が30a以上の規模の農業、又は販売金額50万円以上に相当する規模の農業を行う者（農作業の受託を含む。）。

農業経営体のうち、法人化して事業を行う者。

農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合



資料：農林水産省「農林業センサス」

構造 — 耕地面積 —

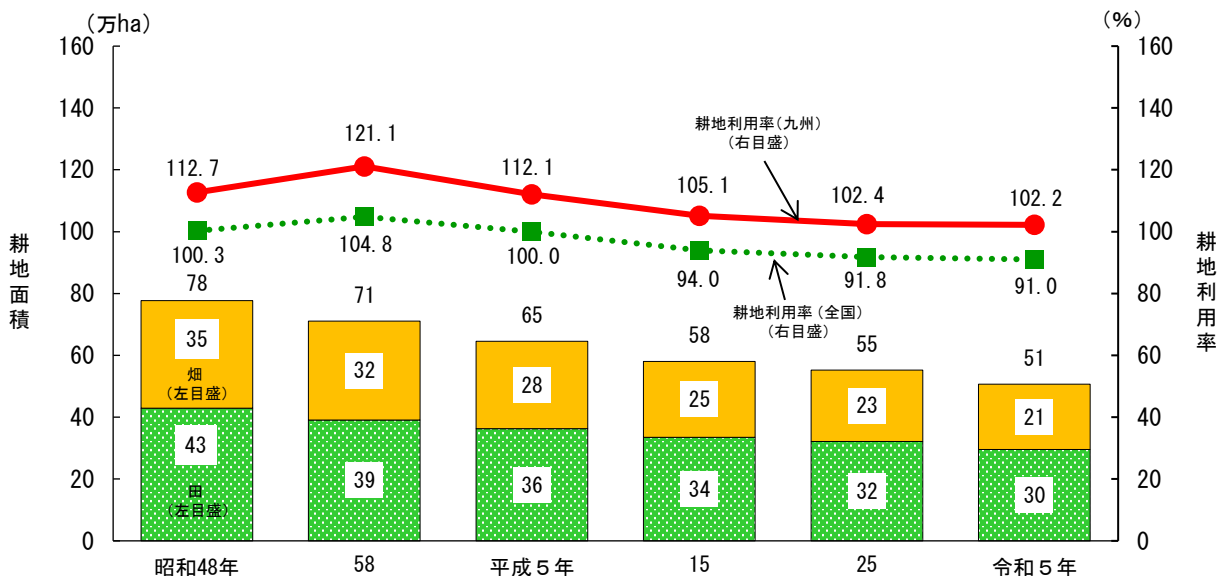
【耕地面積は50万6,300ha、耕地利用率は102.2%】

九州の耕地面積は、全国(430万ha)の約1割を占めています。

生産者の高齢化による荒廃農地の増加、宅地や道路への転用等の理由により、平成5(1993)年から約14万ha減少していますが、荒廃農地対策の推進等もあり、ここ近年の減少幅は緩やかになってきています。

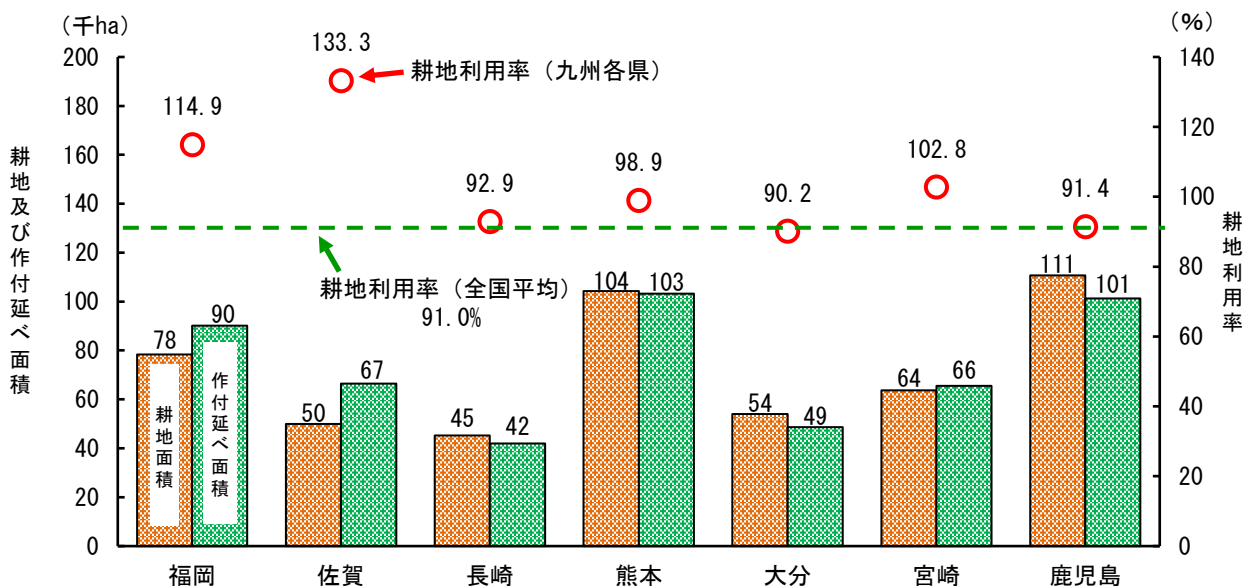
耕地利用率は全国平均91.0%を上回る102.2%となっています。特に、福岡県、佐賀県では水田を活用した裏作(麦)が行われ、宮崎県では飼料作物の作付けが年間複数回行われることから100%を上回っています。

耕地面積と耕地利用率の推移(九州)



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

耕地及び作付延べ面積と耕地利用率(令和5(2023)年)



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

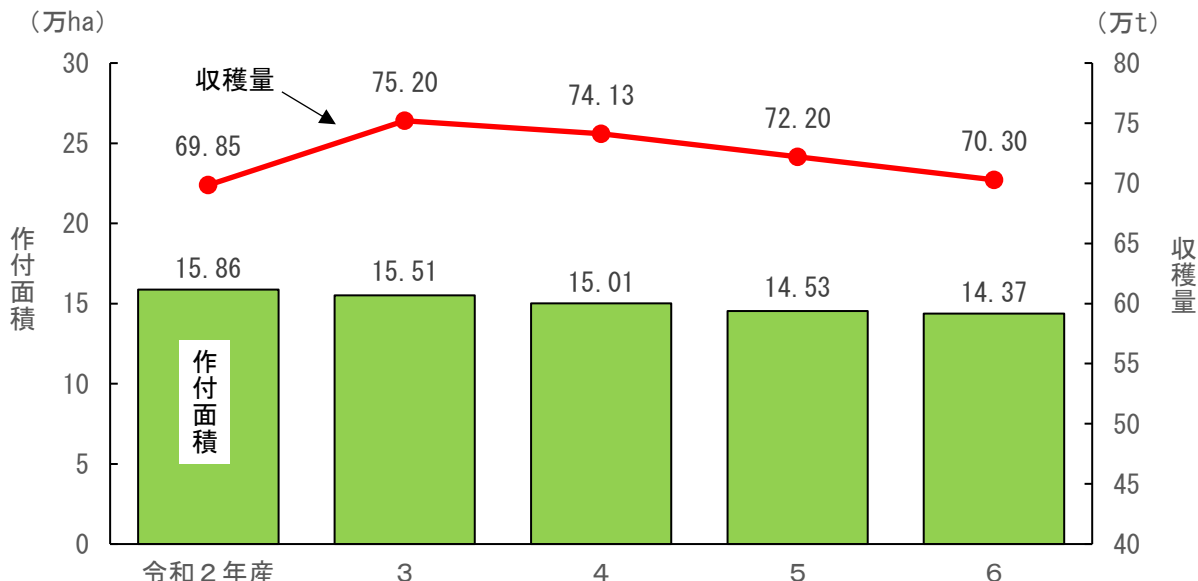
【水稻の収穫量(子実用*)は70万3,000 t (前年産に比べ1万9,000 t 減少)】

令和6(2024)年産における九州の水稻作付面積(子実用)は、14万3,700haで前年産に比べ1,600ha減少しました。そのため、収穫量(子実用)は、前年産から1万9,000 t 減少し70万3,000 t となりました。作柄は、全もみ数が平年を上回ったものの、田植期以降の日照不足や高温及び台風第10号の影響により、「平年並み」(作況指数99)となりました。

令和6年産米の食味ランキング((一財)日本穀物検定協会)では、九州で4銘柄が最高評価の「特A」を獲得しています。

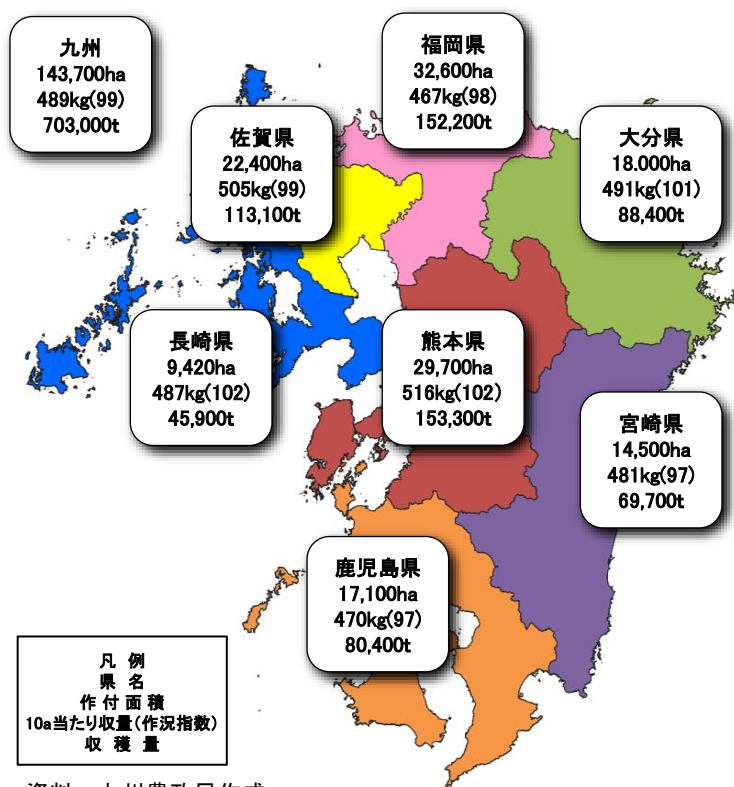
* 主に食用に供すること(子実生産)を目的とするものをいう。

水稻作付面積及び収穫量の推移(九州)

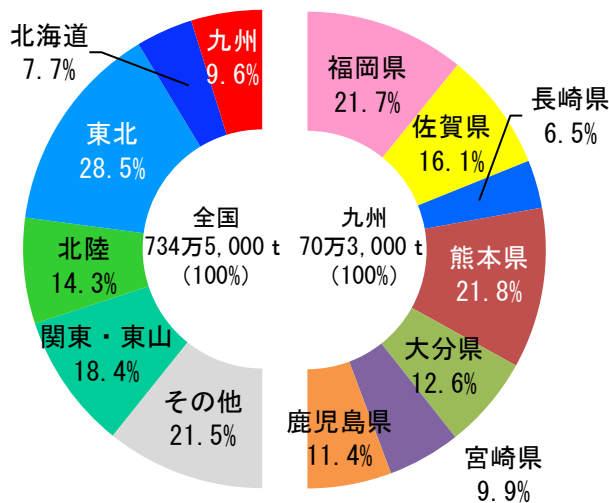


資料：農林水産省「作物統計」

県別作付面積及び収穫量



凡例
県名
作付面積
10a当たり収量(作況指数)
収穫量

令和6(2024)年産
収穫量の割合(全国・九州)

資料：農林水産省「作物統計」

注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致していない場合がある。

令和6(2024)年産食味試験結果
(九州特A一覧)

産地	品種名	地区
佐賀県	さがびより	
	夢しずく	
大分県	ひとめぼれ	西部
鹿児島県	あきほなみ	県北

資料：(一財)日本穀物検定協会

資料：九州農政局作成

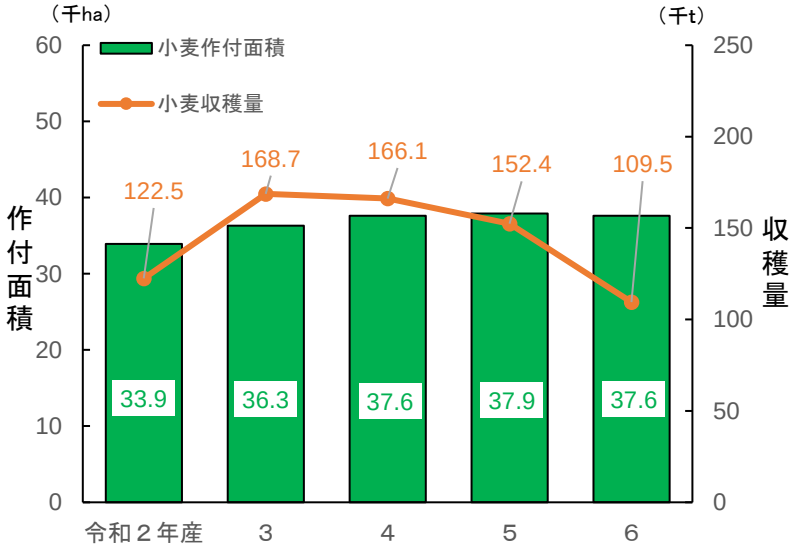
生産 — 小麦・大豆 —

【小麦の収穫量は、前年産に比べ4万2,900 t 減少】

令和6(2024)年産の小麦(子実用*)の作付面積は3万7,600haで前年産に比べ300ha減少、収穫量は10万9,500 tで、前年産に比べ4万2,900 t減少しました。九州の全国に占める割合は10.6%となっており、福岡、佐賀、熊本で約9割を生産しています。

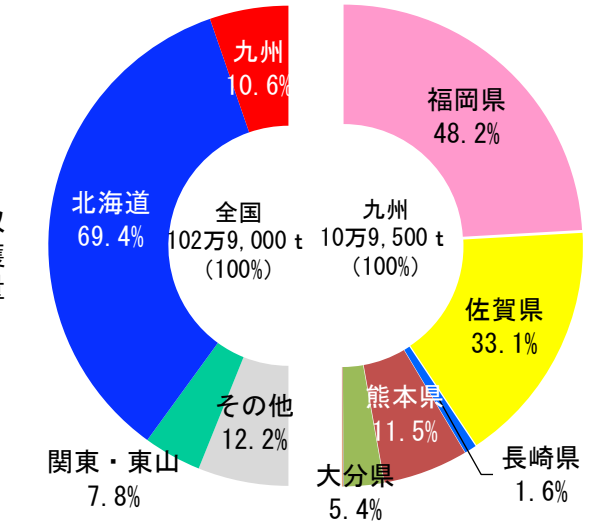
* 主に食用にすること(子実生産)を目的とするものをいう。

小麦作付面積及び収穫量の推移(九州)



資料：農林水産省「作物統計」

令和6(2024)年産
小麦収穫量の割合(全国・九州)



資料：農林水産省「作物統計」

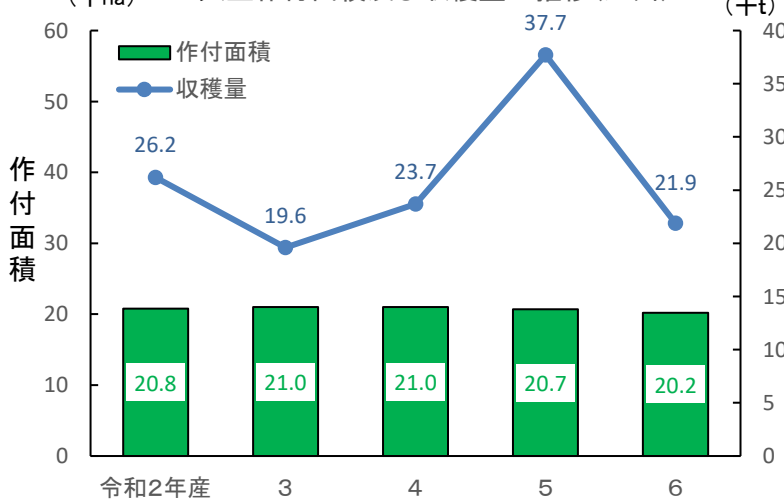
注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致していない場合がある。

【大豆の収穫量は、前年産に比べ1万5,800 t 減少】

令和6(2024)年産大豆(乾燥子実*)の作付面積は2万200haで前年産に比べ500ha減少、収穫量は2万1,900 tで、は種期以降の高温や少雨(過乾燥)による発芽不良や生育不良に加え、台風第10号の影響や虫害の発生も多く前年産に比べ1万5,800 t減少しました。九州の収穫量の全国に占める割合は約9%となっており、福岡、佐賀で約8割を生産しています。

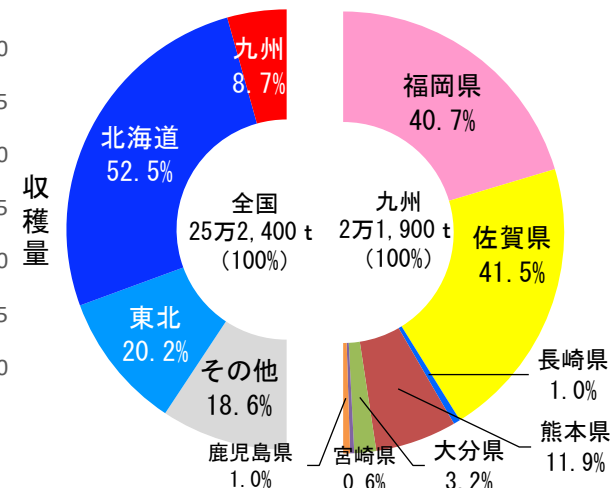
* 食用を目的に未成熟(完熟期以前)で収穫されるもの(えだまめ)を除いたものをいう。

大豆作付面積及び収穫量の推移(九州)



資料：農林水産省「作物統計」

令和6(2024)年産
大豆収穫量の割合(全国・九州)



資料：農林水産省「作物統計」

注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致していない場合がある。

【九州は重要な野菜供給基地】

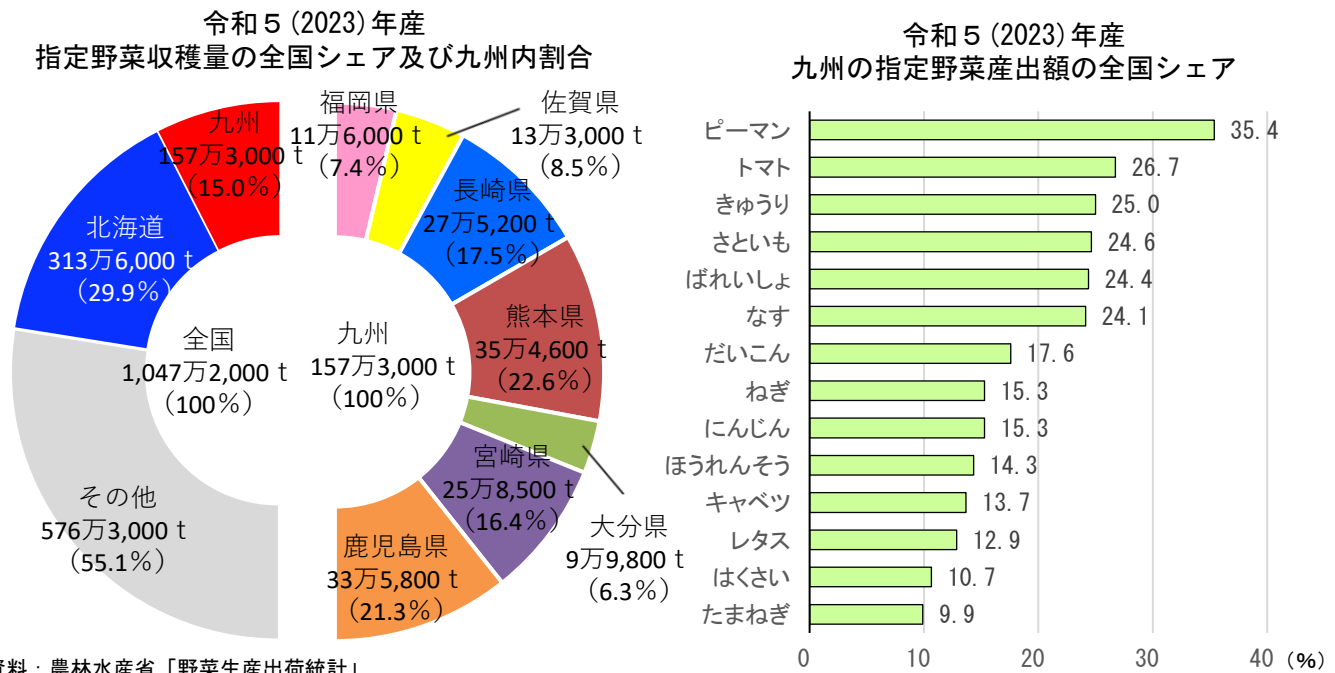
九州では、温暖な気候を生かした野菜の栽培が盛んです。令和5（2023）年産の九州の指定野菜（14品目*1）は、ピーマン及びトマト等の施設野菜や、さといも及びだいこん等の露地野菜を中心に、収穫量では全国の15.0%、産出額では全国の19.8%を占めています。また、野菜全体の産出額（ばれいしょは除く*2）でも、全国の19.7%を占めていることから、九州は重要な野菜供給基地であるといえます。

全国に占める産出額の割合が高い指定野菜を品目別にみると、ピーマン（全国シェア35.4%。宮崎県全国2位、鹿児島県同4位）、トマト（同26.7%。熊本県同1位）、きゅうり（同25.0%。宮崎県同1位）、さといも（同24.6%。宮崎県同2位、鹿児島県同5位、熊本県同9位）の順となっています。

指定野菜以外では、いちご（同34.3%。福岡県同2位、熊本県同3位、長崎県同4位、佐賀県同8位）、すいか（同23.5%。熊本県同1位）、メロン（同22.6%。熊本県同2位）等が、全国に占める産出額の割合が高い品目として挙げられます。

*1 指定野菜とは、野菜のうち特に消費量の多いもの（下右のグラフの14品目）

*2 農業産出額では、ばれいしょは「いも類」に分類される。



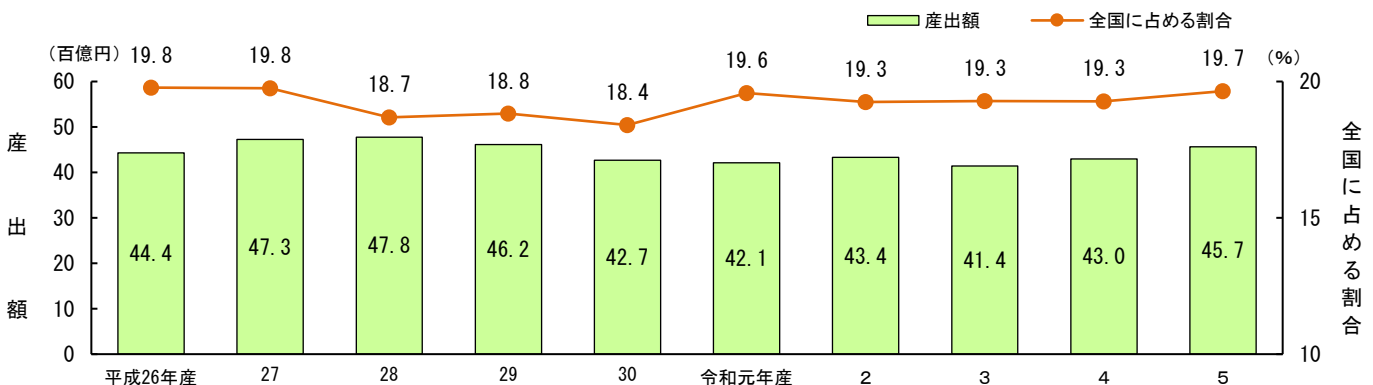
資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

注：1 野菜生産出荷統計結果を基に九州農政局において指定野菜を集計した値

2 数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

野菜の産出額の推移（九州）（10カ年）



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

【栽培面積は減少傾向にあるものの産出額は微増】

九州における果樹の栽培面積（主産県^{*1}）は、生産者の高齢化や担い手不足による廃園等により、令和5（2023）年産は2万5,500haで前年産に比べ500ha減少となっています。

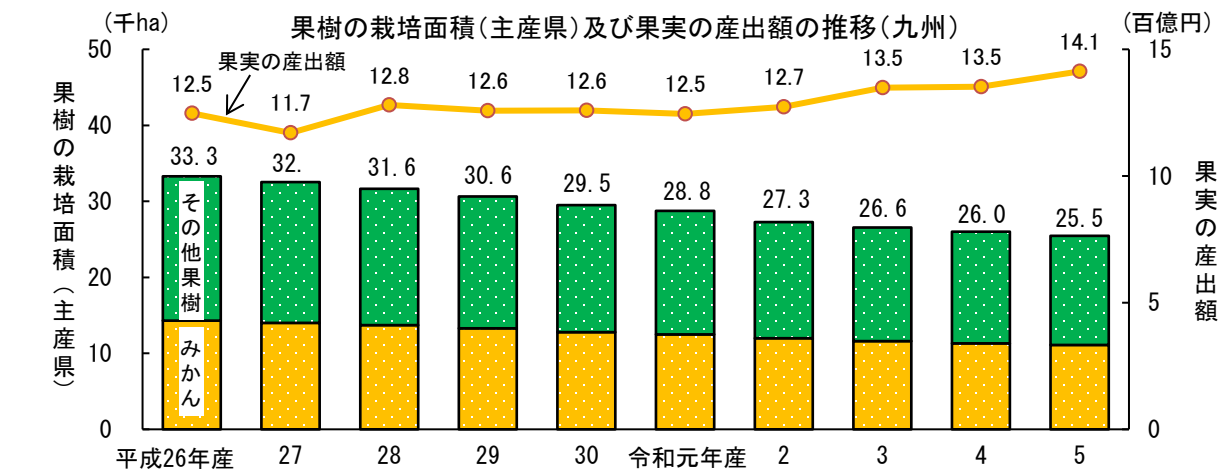
一方で、果実の産出額は1,413億円と前年産に比べ600億円（4.4%）増加しており、これは、生産量の減少によって市場の品薄感が高まり、価格が上昇したこと等が寄与したものと考えられます。

九州が全国の収穫量の約3割を占めるみかんでは、結果樹面積^{*2}が1万600haで前年産に比べ300ha（2.8%）減少したものの、着果数が多かったこと等から、収穫量は21万700tで、前年産に比べ1万2,300t（6.2%）増加しています。また、九州の収穫量のうち、熊本県、長崎県、佐賀県で約8割を占めています。

主な果実の産出額は、みかん562億円（全国シェア32.4%、熊本県全国4位、佐賀県同5位、長崎県同6位、福岡県同8位）、ぶどう193億円（同9.3%、福岡県同5位、大分県同10位）、しらぬい（デコポン）118億円（同68.6%、熊本県同1位）、日本なし104億円（同14.5%、大分県同7位、熊本県同8位、福岡県同9位）となっています。

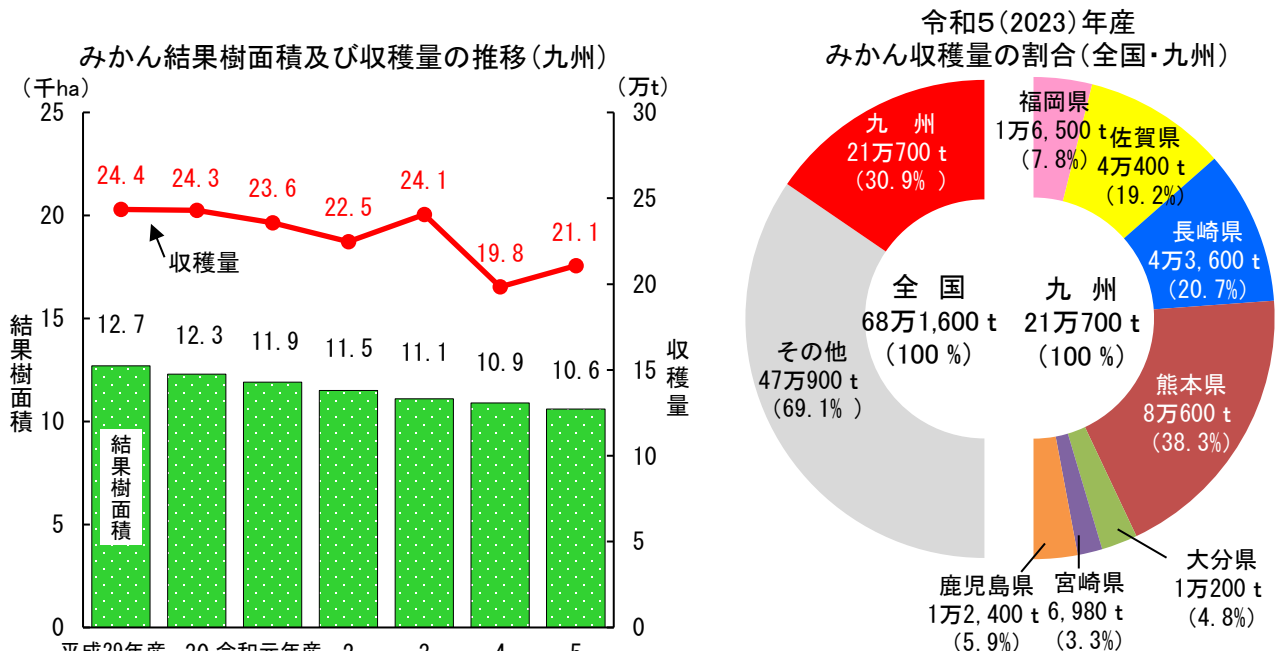
^{*1} 主産県とは、全国の栽培面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県又は果樹共済事業を実施する都道府県

^{*2} 結果樹面積とは、果樹栽培において、その年に収穫を目的として実をならせるために結果させた樹木の面積



資料：農林水産省「生産農業所得統計」「耕地及び作付面積統計」

注：その他果樹は、その他のかんきつ類、くり、かき、日本なし、ぶどう、うめ、びわ、キウイフルーツ、すもも



資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」

資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」

注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

生産 — 花き —

【産出額は回復傾向、栽培面積は漸減傾向】

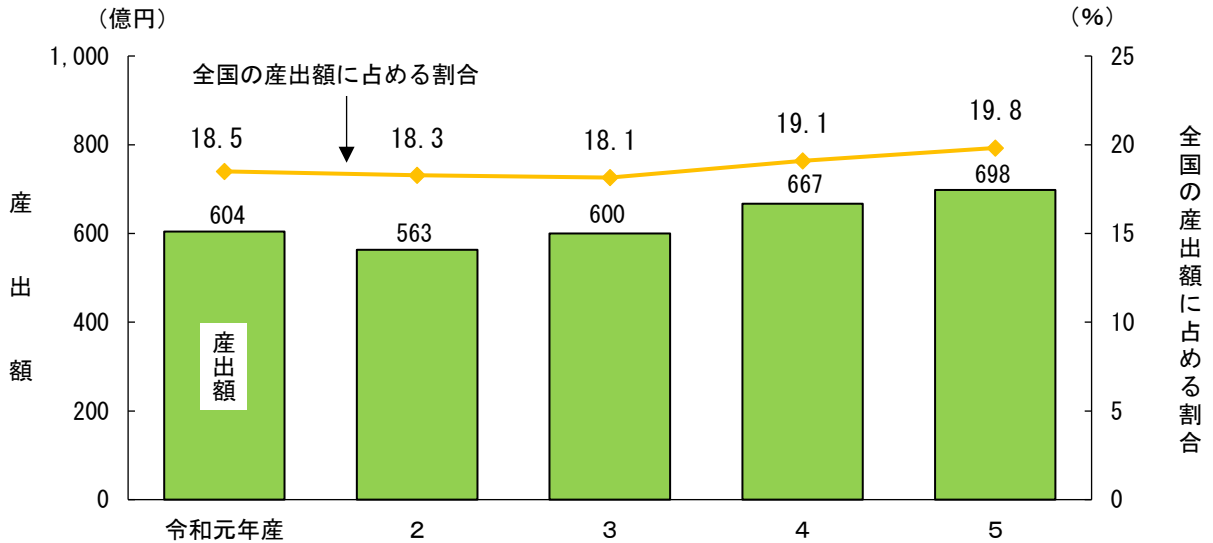
九州における令和5（2023）年産の花きの産出額は、全国の19.8%を占める698億円となっています。前年産に比べ31億円増加しており、これは、継続するイベント需要の高まりや、生産量の減少によって市場の品薄感が高まり、価格が上昇したこと等が寄与したものと考えられます。

一方、令和5（2023）年産切り花の作付面積は2,260haで、前年に比べ30ha（1.3%）減少しています。これは生産者の高齢化による作付面積の減少が続いていることを背景に、近年漸減傾向で推移しているためです。

出荷量は6億1,210万本で、前年産に比べ650万本（1.1%）減少しているものの、全国シェアは20.2%を占めています。

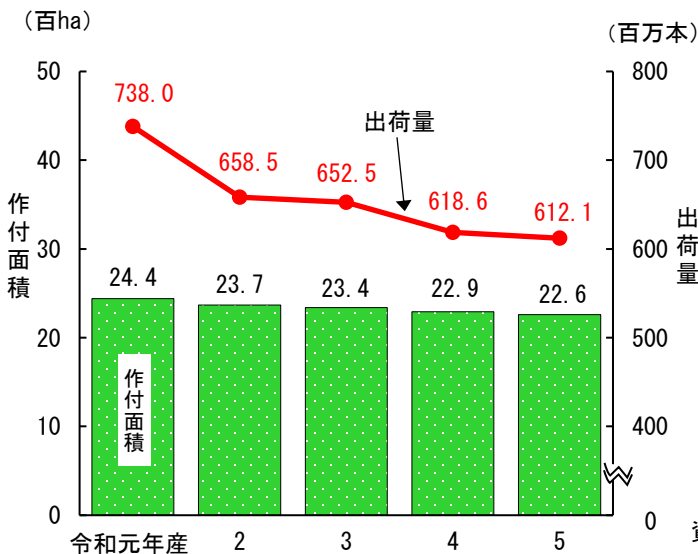
県別の出荷量をみると、きくやガーベラ等の生産が盛んな福岡県、きくや切り葉等の生産が盛んな鹿児島県の両県で九州の43.5%を占めています。

九州における花きの産出額及び全国に占める割合の推移

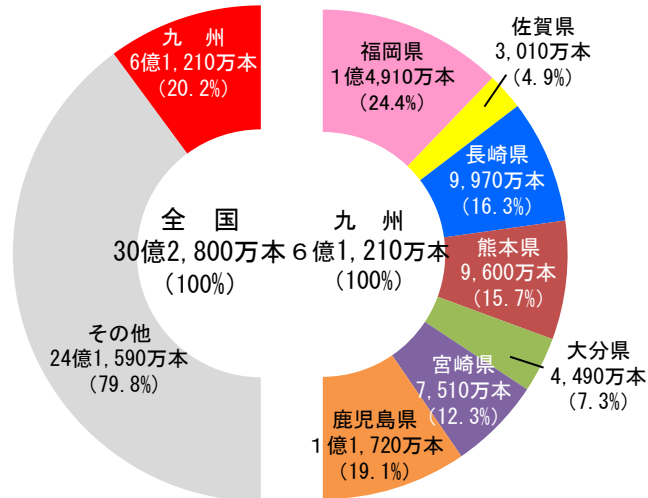


資料：農林水産省「生産農業所得統計」

花き（切り花類）作付面積及び出荷量の推移（九州）



令和5（2023）年産
花き（切り花類）出荷量の割合（全国・九州）



資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

生産 — 地域特産作物 —

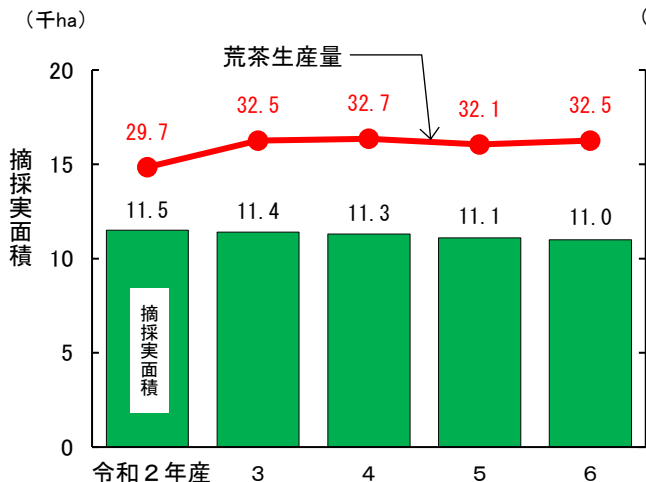
【茶：九州（主産県）の荒茶生産量は、全国（主産県）の約5割を占める】

九州（主産県）^{*}の令和6（2024）年産茶の摘採面積は1万1,000haで前年産に比べ100ha（1.1%）減少しており、荒茶生産量は3万2,500tで前年産に比べ400t（1.2%）増加しています。

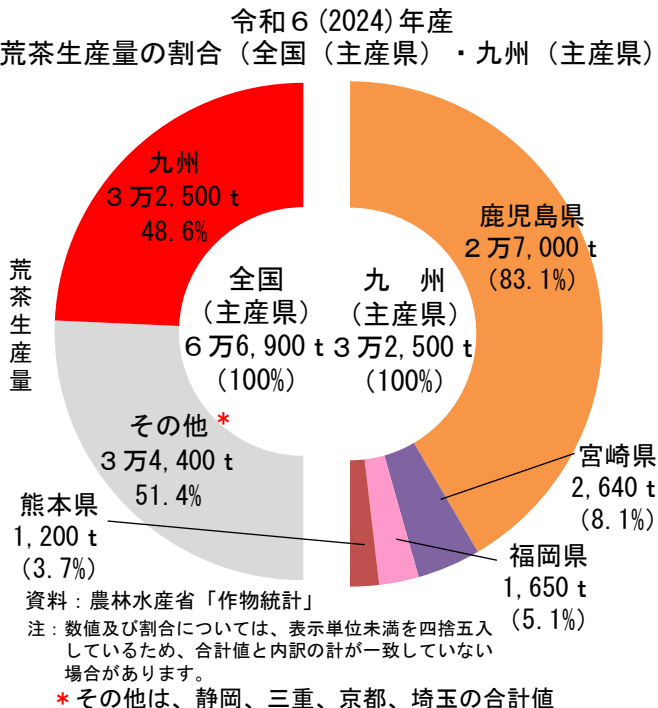
九州（主産県）の荒茶生産量は全国（主産県）の48.6%を占めており、その中でも鹿児島県は、九州全体の8割以上を占めるなど、全国第1位の産地が形成されています。その他、宮崎県、福岡県でも、煎茶やかぶせ茶等の生産、加工が盛んです。

^{*} 九州（主産県）は、福岡、熊本、宮崎、鹿児島の合計値

茶摘採実面積及び荒茶生産量の推移（九州（主産県）） 荒茶生産量の割合（全国（主産県）・九州（主産県））



資料：農林水産省「作物統計」
注：令和6年産は概数値である。

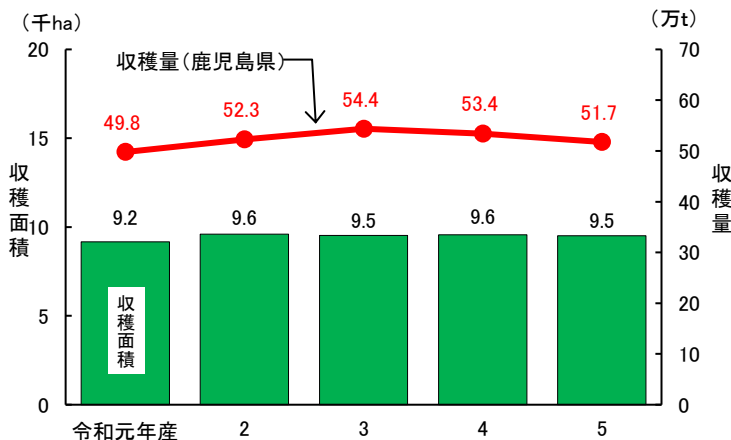


【さとうきび：鹿児島県南西諸島の基幹的作物】

さとうきびは、鹿児島県南西諸島及び沖縄県の基幹作物として栽培されています。近年、鹿児島県のさとうきび収穫面積は横ばい傾向で推移しており、令和5（2023）年産の収穫面積は9,510haとなっています。

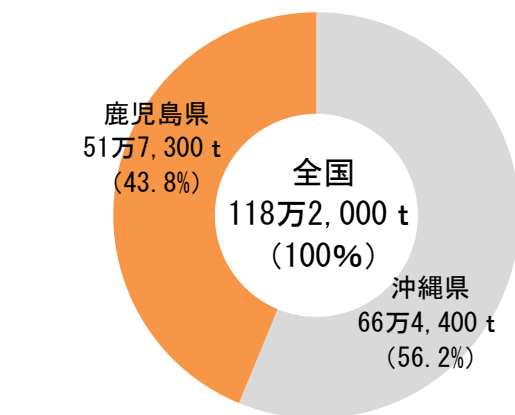
一方、収穫量は年間を通して少雨だったことにより生育が抑制されたことから、前年産に比べてやや減少し、51万7,300tとなっています。

さとうきび収穫面積及び収穫量の推移（鹿児島県）



資料：農林水産省「作物統計」

収穫量の全国シェア（令和5（2023）年産）



資料：農林水産省「作物統計」

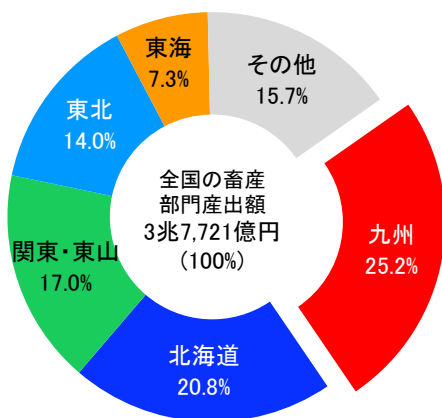
注：数値及び割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致していない場合があります。

【日本最大の畜産地帯】

九州における畜産部門の農業産出額は、全国の約25%を占めており、畜種別では、高い順に鶏（鶏卵及びブロイラー）、肉用牛、豚、乳用牛となっています。

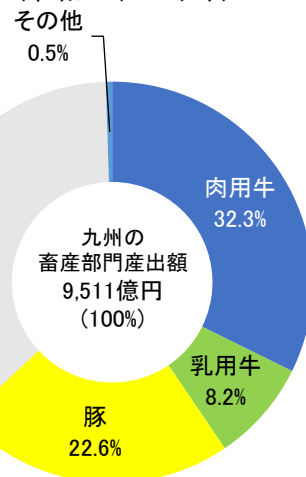
また、九州における肉用牛、豚及びブロイラーの畜種別農業産出額の全国シェアは、それぞれ約4割、約3割、約5割を占め、農業地域別で全国1位の生産地域であり、我が国最大の食肉供給基地となっています。

農業産出額の畜産部門の全国割合
(令和5(2023)年)



九州の畜産部門産出額の畜種別割合
(令和5(2023)年)

畜種別



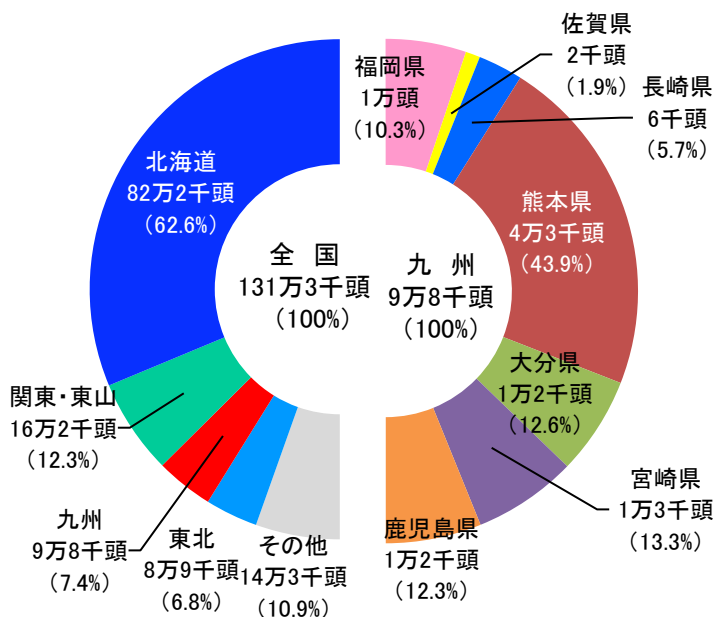
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

【乳用牛】

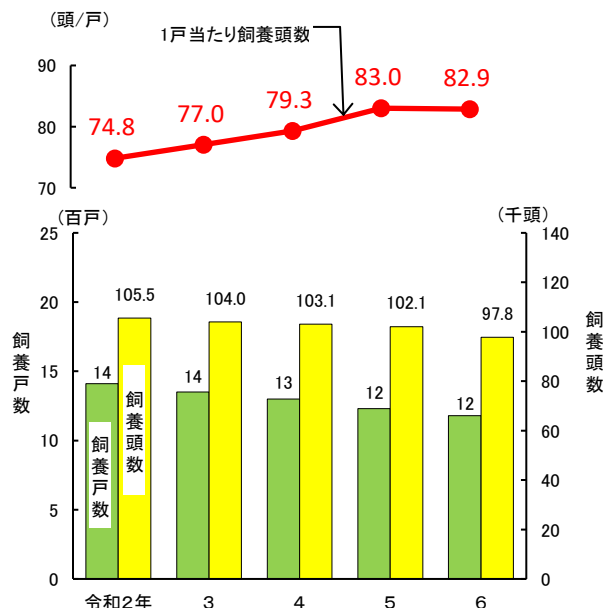
乳用牛の飼養頭数は近年減少傾向で推移しており、令和6(2024)年は前年に比べ、4,300頭減少し9万7,800頭となりました。県別の飼養頭数では熊本県が全国3位となっています。

飼養頭数の割合（全国・九州）
(令和6(2024)年2月1日現在)



注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

飼養戸数、飼養頭数の推移(九州)

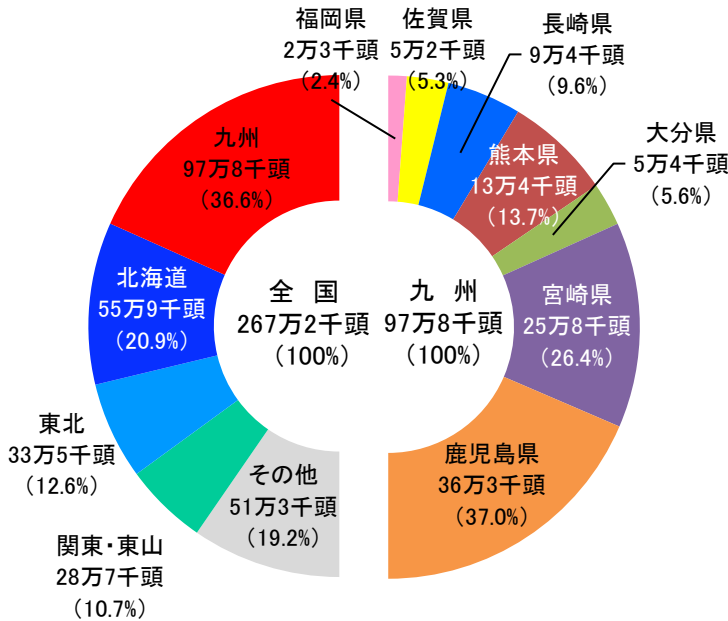


資料：農林水産省「畜産統計」

【肉用牛】

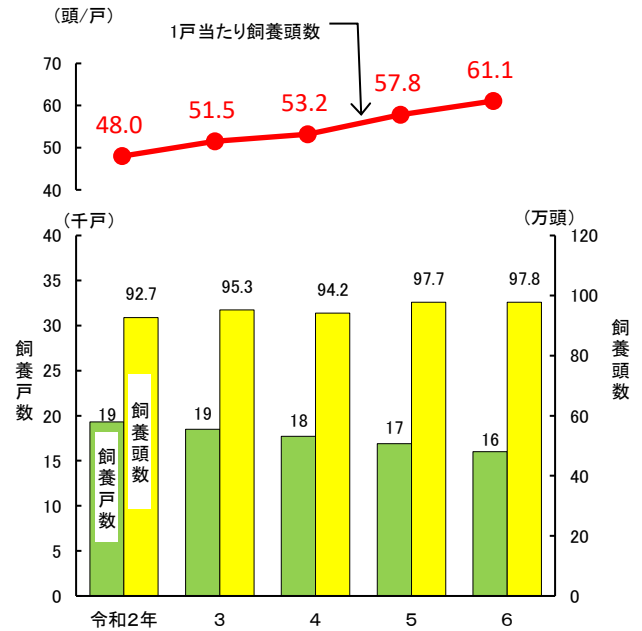
肉用牛の飼養頭数は、各般の生産基盤強化対策の実施により、増加傾向で推移しており、令和6（2024）年については前年に比べ800頭増加し97万8,200頭となりました。九州は全国の飼養頭数の3分の1強を占めており、県別の飼養頭数では鹿児島県が全国2位、宮崎県が同3位、熊本県が同4位、長崎県が同5位となっています。

飼養頭数の割合（全国・九州）
（令和6（2024）年2月1日現在）



注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

飼養戸数、飼養頭数の推移（九州）

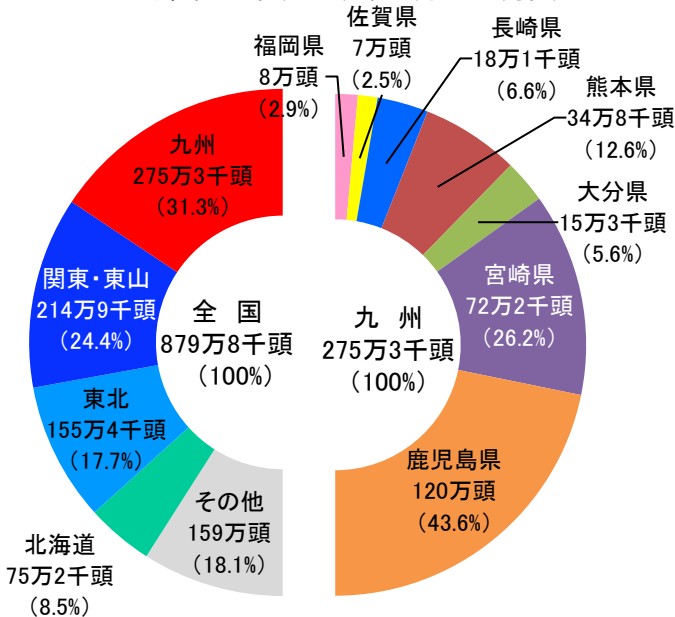


資料：農林水産省「畜産統計」

【豚】

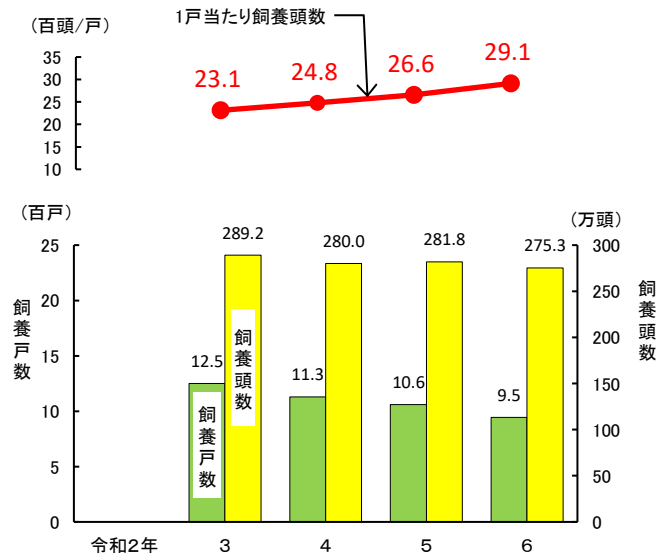
飼養頭数は減少傾向で推移しています。令和6（2024）年は前年に比べ6万5,000頭減少し275万3,000頭となりました。県別の飼養頭数では鹿児島県が全国1位、宮崎県が同3位となっています。

飼養頭数の割合（全国・九州）
（令和6年（2024）年2月1日現在）



注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

飼養戸数、飼養頭数の推移（九州）



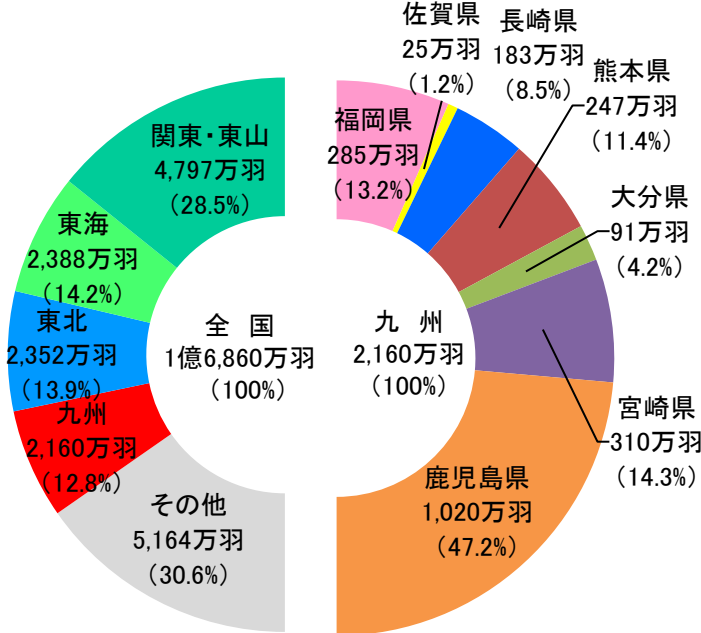
資料：農林水産省「畜産統計」

注：令和2（2020）年は、農林業センサス実施年のため「豚」の調査休止。

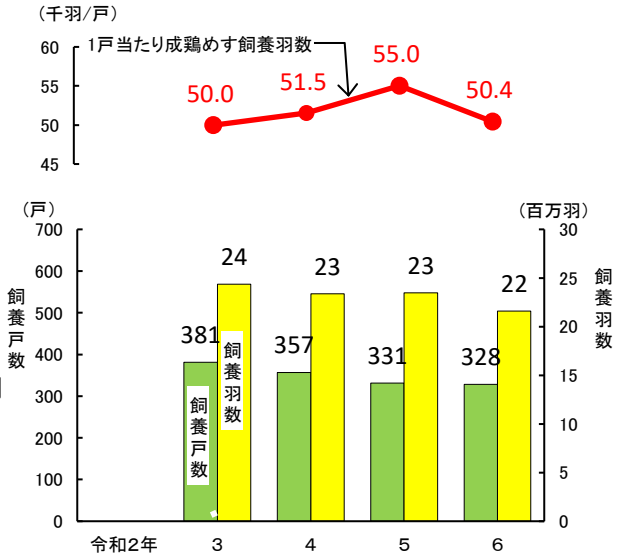
【採卵鶏】

近年の飼養羽数は、減少傾向で推移しており、令和6(2024)年は前年に比べ185万8,000羽減少し2,160万1,000羽となりました。県別の飼養羽数では鹿児島県が全国3位となっています。

飼養羽数の割合（全国・九州）
（令和6年(2024)年2月1日現在）



飼養戸数、飼養羽数の推移(九州)



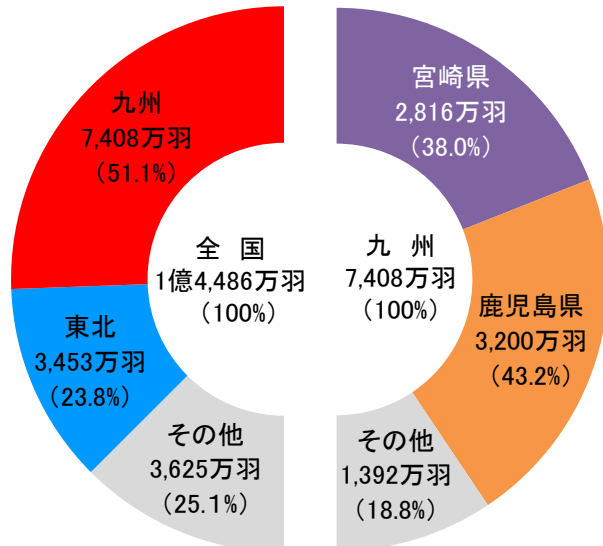
注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

資料：農林水産省「畜産統計」
注：令和2(2020)年は、農林業センサス実施年のため「採卵鶏」の調査休止。

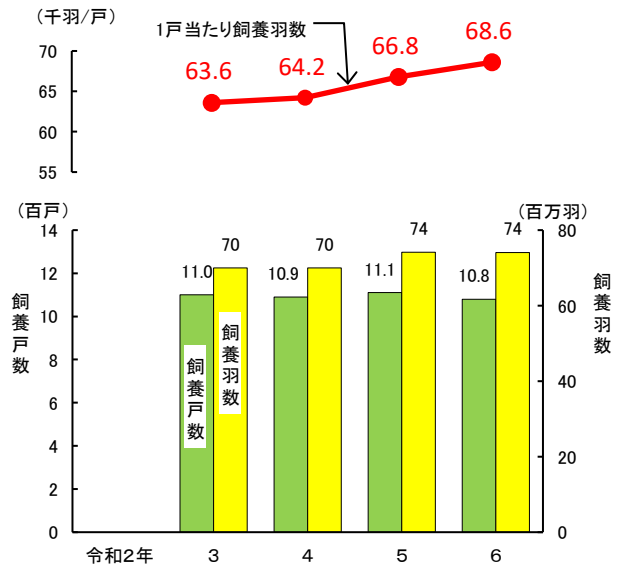
【ブロイラー】

近年の飼養羽数は、ほぼ横ばいで推移しており、令和6(2024)年は前年に比べ3万3,000羽減少し7,408万羽となりました。県別の飼養羽数では、鹿児島県が全国1位、宮崎県が同2位となっています。

飼養羽数の割合（全国・九州）
（令和6年(2024)年2月1日現在）



飼養戸数、飼養羽数の推移(九州)



注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

資料：農林水産省「畜産統計」
注：令和2(2020)年は、農林業センサス実施年のため「ブロイラー」の調査休止。